

平成30年12月21日

独立行政法人 勤労者退職金共済機構
資産運用部

調査関係書類記載要領

【調査関係書類の記載方法について】

1. ご提出いただく所定様式の調査関係書類は、国内株式アクティブ運用のプロダクトを応募される場合は「国内株式アクティブ プロダクト概要(サマリー)」と「国内株式アクティブ運用機関調査回答書(調査票)」の2種類(ファイル)、国内株式スマートベータ運用のプロダクトを応募される場合は「国内株式スマートベータプロダクト概要(サマリー)」と「国内株式スマートベータ運用機関調査回答書(調査票)」の2種類(ファイル)です。
各々の正本1部ずつについては、表紙の所定の箇所に捺印してください。
2. 各記載項目について、本記載要領に加えて、各項目のコメント部、脚注、中小企業退職金共済事業資産運用の基本方針を参照して回答してください。
3. ファイルのセルに色がついた箇所を記入していただくようになっています。赤字部分は指示コメントや記入例ですので、それらを参照していただき、削除のうえ回答を記入してください。
4. 運用実績データや各種計数等のデータ入力部分以外は、コメント文字の大きさや位置等を適宜調整していただいて結構です。
5. コメント記載欄に記入するコメントが無い場合には、特に指定がなければ、空白にせず「なし」と記入してください。(記入漏れと区別するため)
6. 脚注等で特に指定がなければ、基準時点は2018年3月末として記入してください。(それ以外の基準で作成する場合は、その旨を記載してください)
7. 今後、大幅な変更を予定している項目については、変更予定日、及び変更後の状況等も併せて記載してください。(言及できる範囲で結構です)

8. 「プロダクト概要(サマリー)」と「運用機関調査回答書(調査票)」のExcelファイルについて、各シートのシート名については、変更しないでください。

※各様式の記載要領は、以下のリンクから確認いただけます。

[国内株式アクティブ プロダクト概要 \(サマリー\) P3](#)

[国内株式アクティブ運用機関調査回答書 \(調査票\) P9](#)

[国内株式スマートベータ プロダクト概要 \(サマリー\) P16](#)

[国内株式スマートベータ運用機関調査回答書 \(調査票\) P22](#)

国内株式アクティブ プロダクト概要(サマリー)

表紙

記載項目	記載上の注意事項
運用再委託先名	・グループ会社であっても、運用の実質的投資判断を行う再委託先として契約書等に明記することとなる場合には、運用再委託先として記載してください。

【1】

記載項目	記載上の注意事項
運用機関名、運用再委託先、プロダクト名	・グループ会社であっても、運用の実質的投資判断を行う再委託先として契約書等に明記することとなる場合には、運用再委託先として記入してください。
運用スタイル	・該当する運用スタイル名の右隣のセルで『○』を選択してください。また、「その他」を選択した場合には、その運用スタイルの内容を記入してください。
運用手法	・例に倣って記入してください。
投資対象（サイズ）	・例に倣って記入してください。
運用開始年月	・調査票の2. (1)応募プロダクトの概要の④運用開始年月と同じ。
運用ベンチマーク	・応募プロダクトがベンチマークとしている指標を記載。 TOPIX(配当込み)の場合は、その右隣のセルで『○』を選択。その他の場合は、その右隣のセルで『○』を選択するとともに、その運用ベンチマーク名を記載。
目標超過収益率	・何に対するの目標かを示すこと。
目標リスク（TE）	・指標を明確に記載。 ・何に対するの目標かを示すこと。 (例) 対TOPIX(配当込み)の推定TE目標値：●%～●% 同実績TE：上限●%（管理値）
想定売買回転率	
想定保有銘柄数	
キャパシティ	・応募プロダクトへの資金流入により、当該運用がソフトクローズになるような運用受託残高上限のイメージ。(あれば)
最低投資金額	・応募プロダクトについて、1ファンドとして受託可能な下限金額

国内株式アクティブ運用プロダクトの 受託残高	<ul style="list-style-type: none"> ・応募先について記載。（運用再委託先ではない） ・調査票の1.(2)業況の②受託資産残高、件数の推移の〈アセットクラス別〉に記載する国内株式アクティブの残高(2018/3/31)を記載。
うち応募プロダクトの受託残高	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の残高のうち、応募プロダクトと同一戦略※のファンドの総受託残高。（海外受託分も含む） ※「同一戦略」とは、「応募プロダクトと同じ運用組織、運用プロセスによる運用で、類似のリスク・リターン特性を持つもの」とします。

【2】

記載項目	記載上の注意事項
プロダクトの概要、投資哲学等	<ul style="list-style-type: none"> ・調査票で詳しく記載していただきますので、こちらには簡潔に記入してください。

【3】

記載項目	記載上の注意事項
超過収益源泉の割合イメージ (%)	<ul style="list-style-type: none"> ・超過収益源泉が6つ以上ある場合には、本シートをコピーして、そちらに続けてご記入ください。（行を挿入しないでください。）

【4】

記載項目	記載上の注意事項
応募プロダクトについて、運用制約があった場合の対応（可否）、考え方等	<ul style="list-style-type: none"> ・各運用制約について、応募プロダクトの運用が可能かどうか、また可能であるが通常の運用とは異なる対応が必要となるのであれば、現実的にどのような対応を行う考えであるのかをお答えください。（<u>運用制約についての是非をお聞きしているものではありません</u>） ・オフベンチマーク銘柄や低流動性銘柄については、応募プロダクトの通常運用における運営や考え方、併せて制約がある場合の対応について記載ください。

【5】 対TOPIX(配当込み)の定量データ等

記載項目	記載上の注意事項
超過収益率、要因分析	
実績TE(年率)、情報レシオ	
推定TE、ベータ値、保有銘柄数	<ul style="list-style-type: none"> ・各年度末(期末)の数字を記載。

売買回転率	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算方法は、{(売約定金額+買約定金額)÷2} ÷時価平均残高(未収収益、評価損益を含む)とする。 それ以外の計算方法による場合は、特記事項欄に内容を記載。
応募プロダクト受託残高	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【1】うち応募プロダクトの受託残高と同じ。 ・ 各年度末(期末)の数字を記載。
応募プロダクト顧客数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記の応募プロダクト受託残高に対応する顧客数。 ・ 原則としてファンド数でなく、顧客数ベースで計上。合同口は顧客数を数え、1顧客から複数ファンドを受託している場合は1件として数えてください。 (そうでない場合は特記事項に内容を記載のこと。) ・ 各年度末(期末)の数字を記載。
特記事項	

【6】

記載項目	記載上の注意事項
TOPIX(配当込み)に対する超過収益率の要因分析項目の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要因分析項目が6つ以上ある場合には、本シートをコピーして、そちらに続けてご記入ください。(行を挿入しないでください。)

【7】

記載項目	記載上の注意事項
過去に大きなドロウダウンや、受託額の大幅な変動があった場合の説明	

以下、【8】及び【9】については、応募プロダクトの運用ベンチマークがTOPIX(配当込み)以外である場合のみ記入すること。

(応募プロダクトのベンチマークがTOPIX(配当込み)である場合及び応募プロダクトがノンベンチマークである場合は記載の必要なし)

【8】

記載項目	記載上の注意事項
運用ベンチマーク	【1】で回答した運用ベンチマーク名を記載。
目標超過収益率	・ 応募プロダクトの運用ベンチマークに対するものを記載すること。

目標リスク (TE)	<ul style="list-style-type: none"> ・応募プロダクトの運用ベンチマークに対するものを記載すること。 ・指標を明確に記載。 (例) 推定TE目標値：●%～●% 実績TE：上限●% (管理値)
超過収益率、要因分析	・運用ベンチマークに対する超過収益率及びその要因分析を記載すること。
実績TE (年率)、情報レシオ	
推定TE、ベータ値	・各年度末(期末)の数字を記載。

【9】

記載項目	記載上の注意事項
TOPIX(配当込み)以外の運用ベンチマークに対する超過収益率の要因分析項目の説明	・要因分析項目が6つ以上ある場合には、本シートをコピーして、そちらに続けてご記入ください。(行を挿入しないでください。)

【10】

記載項目	記載上の注意事項
規模別構成比	・時価総額ウェイトベースでの数値 (%) を記載。

【11】

記載項目	記載上の注意事項
業種別構成比	・時価総額ウェイトベースでの数値 (%) を記載。

【12】

記載項目	記載上の注意事項
リスク分析①	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>運用実績のある期間について</u>、Barra JPE4モデルによるリスク分析を記載すること。 ・JPE4モデル導入前の分についても、運用実績のある期間について遡ってJPE4モデルによる分析を作成すること。 ・Barra JPE4モデルによるリスク分析のデータが作成できない場合は、こちらのシートには記入せず、【13】に現在利用しているリスクモデル分析のデータを記載すること。

【13】

記載項目	記載上の注意事項
リスク分析②	<ul style="list-style-type: none"> ・Barra JPE4モデルによるリスク分析のデータを作成できない場合は、<u>運用実績のある期間</u>について、現在利用しているリスクモデルによるリスク分析をこちらのシートに記載すること。 ・現在利用しているモデルを指定期間の途中で導入した場合も、<u>運用実績のある期間</u>については遡って分析を作成すること。 <p>(【12】にてBarra JPE4モデルによるリスク分析を記載した場合は、【13】は記載の必要なし。)</p>

【14】 -1

記載項目	記載上の注意事項
月次運用実績データ (収益率)	<ul style="list-style-type: none"> ・コンポジット又は代表ファンドのデータを記載。 <p>いずれを選んだかを、(i) 掲載ファンドの内容にて説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載のファンド収益率が、シミュレーションにより算出したものである場合などは、その算出方法を具体的に(iii)シミュレーションの前提条件等、その他特記事項に記載してください。
月次運用実績データ (推定TE、ベータ値)	<ul style="list-style-type: none"> ・同上
(i) 掲載ファンドの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・指定の各事項について必ず記載してください。
(ii) 掲載ファンドの基本的な運用条件	
(iii) シミュレーションデータが含まれる場合	
(iv) その他特記事項	

【14】 -2

記載項目	記載上の注意事項
月次運用実績データ (収益率)	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>応募プロダクトの運用ベンチマークがTOP I X (配当込み) 以外である場合のみ記載。</u> ・【14】-1で記載したファンドについて、運用ベンチマークに対するデータを記載。
月次運用実績データ (推定TE、ベータ値)	<ul style="list-style-type: none"> ・同上

【15】

記載項目	記載上の注意事項
TOPIX対象外銘柄の保有状況	<ul style="list-style-type: none">・ TOPIX対象銘柄以外の全ての保有銘柄を記載。・ 【14】に掲載した月次運用実績データが代表ファンドのものである場合、ここに掲載するファンドも同一のものであるのが望ましい。

【16】

記載項目	記載上の注意事項
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none">・ 前掲の【1】～【15】の各項目で記入できなかった特記事項等が何かあればこちらに記載。（何もなければ「なし。」と記載してください。）

国内株式アクティブ 運用機関調査回答書(調査票)

表紙

記載項目	記載上の注意事項
運用再委託先名	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ会社であっても、運用の実質的投資判断を行う再委託先として契約書等に明記することとなる場合には、運用再委託先として記載してください。 ・各項目について、再委託先についても作成する、あるいは再委託先について作成する旨の脚注があるものは、その指示にしたがって作成してください。その際、記載不能な箇所がある場合は、その旨のコメントを入れるなど適宜ご判断して作成してください。

1.(1)会社概要 (様式1-1-1) (様式1-1-2)

記載項目	記載上の注意事項
①会社名	
②所在地	
③代表者	
④役員数、従業員数	
⑤設立年月日	
⑥登録・許認可	
⑦資本金	・基準時点も記載。
⑧主要株主	
⑨会社沿革	
⑩経営理念	
⑪企業グループ全体の一覧表	・グループの全体像とそこでの貴社の位置づけがわかるように記載。

1.(2)業況 (様式1-2)

記載項目	記載上の注意事項
①業績 (過去5年度の決算状況(連結))	・確定した直近決算期から過去5年度分の本決算の数字を記載。(例えば、2017年度(2018年3月31日)決算の数字が未確定で記載できない場合等は、2016年度(2017年3月31日)以前の5年度分を記載)

②受託資産残高、件数の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・件数は顧客数ベースの件数を記載。 ・〈顧客類型別〉と〈アセットクラス別〉の合計件数は一致しなくて結構です。
---------------	---

1.(3)組織図 (様式1-3)

記載項目	記載上の注意事項
会社組織の全体像及び各組織の人数	・特に応募プロダクトの運用部門の位置づけがわかるように記載。

1.(4)運用スタッフ (様式1-4)

記載項目	記載上の注意事項
①運用の最終責任者	・貴社のチーフ・インベストメント・オフィサーを記載。 (応募プロダクトの運用チーフということではない)
②人数の推移、平均経験年数、平均勤続年数	
③人材育成に関する考え方、体制	
④評価体系、給与体系等で工夫している点 (定着率を向上させるための施策)	

1.(5)資金運用業務に関する行政処分の状況 (様式1-5)

記載項目	記載上の注意事項
過去5年(平成25年4月以降)の行政処分の有無	
過去5年(平成25年4月以降)の運用業務に係る訴訟の有無	

2.(1)応募プロダクトの概要 (様式2-1)

記載項目	記載上の注意事項
①実質的投資判断を行う再委託先	・グループ会社であっても、運用の実質的投資判断を行う再委託先として契約書等に明記することとなる場合には、運用再委託先として記載してください。
②プロダクト名・スタイル	<ul style="list-style-type: none"> ・運用スタイルについては、該当する運用スタイル名の右隣のセルで『○』を選択してください。また、「その他」を選択した場合には、その運用スタイルの内容を記入してください。 ・運用手法と投資対象(サイズ)は、例に倣って記入してください。

③投資哲学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 超過収益獲得の根拠となる投資哲学を、できる限り理論的・実証的背景を踏まえて説明するのが望ましい。 ・ 記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
④運用開始年月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応募プロダクトの運用開始年月を記載。 (運用業務開始や運用再委託開始の年月ではない)
⑤運用目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定量的な指標を記載。
⑥超過収益の源泉	
⑦資産運用額の上限（キャパシティ）	<p>プロダクト概要【1】のキャパシティと同じ金額を記載してください。</p>
⑧資産運用額の上限の考え方・管理について	

2.(2)運用体制（様式2-2）

記載項目	記載上の注意事項
①応募プロダクトの運用担当部署、調査担当部署	
②応募プロダクトの運用担当者、調査担当者の状況	
③応募プロダクトの運用担当者、調査担当社の状況の経歴書	

2.(3)運用プロセス（様式2-3-1）（様式2-3-2）

記載項目	記載上の注意事項
①応募プロダクトの運用に係る意思決定プロセスのフローチャート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他ファイルの貼り付け可。 ・ 記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
②意思決定プロセスに係わる機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同上。
③応募プロダクトのポートフォリオ構築までの各段階におけるプロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同上。

2.(4)運用のモニタリング(ミドルオフィス体制)（様式2-4）

記載項目	記載上の注意事項
①応募プロダクトに係る運用のモニタリング体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ フロントオフィス(運用部門)とミドルオフィス(評価・分析部門)が分離されているか説明してください。 ・ 他ファイルの貼り付け可。 ・ 記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）

②モニタリングの内容、目的、ツールと方法、頻度等	<ul style="list-style-type: none"> ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
③運用状況の分析・評価、運用部門へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・フロントオフィスとミドルオフィス間のチェック体制について説明してください。 ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）

2.(5) デリバティブの利用 （様式2-5）

記載項目	記載上の注意事項
①応募プロダクトで利用するデリバティブの種類、利用目的、基準・条件等	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客からの運用制約等は考慮せず、通常の形での運用を前提とした記載で結構です。（通常の利用の仕方）

2.(6) 日本版スチュワードシップ・コードへの対応（様式2-6）

記載項目	記載上の注意事項
①スチュワードシップ活動への対応方針、取り組み等	<ul style="list-style-type: none"> ・会社としての対応方針、取り組みを簡潔に説明してください。（応募プロダクトについてということではない） ・他ファイルの貼り付け可。
②利益相反管理の基本方針、管理体制等	<ul style="list-style-type: none"> ・スチュワードシップ活動に係る利益相反管理について説明してください。（「様式3-5 コンプライアンス・監査体制」と内容が重複しても結構です。） ・「③議決権行使について」及び「④投資先との対話（エンゲージメント）について」と内容が重複する、あるいは分けると書きにくいような場合は、②③④をまとめて記載するなどの形でも結構です。 ・他ファイルの貼り付け可。 ・管理体制については、フローチャート図等をお示ください。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
③議決権行使について	<ul style="list-style-type: none"> ・体制・プロセスについては、フローチャート図等をお示ください。 ・他ファイルの貼り付け可。 <p>記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）</p>
④投資先企業との対話（エンゲージメント）について	<ul style="list-style-type: none"> ・同上

2.(7) PRI、ESGへの取組み（様式2-7）

記載項目	記載上の注意事項
①PRI（国連投資責任原則）への署名の有無	
②PRIへの対応方針等	<ul style="list-style-type: none"> ・署名しているのであればその理由、実際の取組み等。 署名していないのであれば、その理由と今後の署名に対する方針等。
③会社としてのESGに対する対応方針、取組み等	<ul style="list-style-type: none"> ・会社としてのESGに対する対応方針、現在あるいは今後予定している取組み等についてご記入ください。（応募プロダクトについてということではない） 記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）

2.(8) 特記事項（様式2-7）

記載項目	記載上の注意事項
①応募プロダクトの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
②投資・解約条件など特殊な条件や制約等	<ul style="list-style-type: none"> ・同上。

3.(1) リスク管理体制（様式3-1）

記載項目	記載上の注意事項
①担当する部署、体制	<ul style="list-style-type: none"> ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
②主要な管理項目と具体的な内容、頻度	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク認識及びリスク管理の方法（重視するリスク管理指標、目標数値の設定、リスク分析、モニタリング方法等）について説明してください。 ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
③利用するツールやシステム対応	<ul style="list-style-type: none"> ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
④市場急変時の対応、緊急事態発生時における業務継続計画（BCP）等	<ul style="list-style-type: none"> ・同上
⑤運用再委託がある場合は、再委託の管理・監督等	<ul style="list-style-type: none"> ・同上

3.(2)トレーディング体制 (様式3-2)

記載項目	記載上の注意事項
①担当する部署、体制	<ul style="list-style-type: none"> ・専任トレーダー数、運用フロントとの役割分担等について示してください。 ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。(複数ページに渡って結構です。)
②トレーディングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。(複数ページに渡って結構です。)
③証券会社の選定基準、発注基準(ソフトダラーとの関連)	<ul style="list-style-type: none"> ・同上。
④最良執行、取引コスト抑制等への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・トレーディングについて工夫している点について説明してください。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。(複数ページに渡って結構です。)

3.(3)事務処理体制 (様式3-3)

記載項目	記載上の注意事項
①担当する部署、体制	<ul style="list-style-type: none"> ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。(複数ページに渡って結構です。)
②バックオフィスのシステム	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンドデータを処理・管理する基幹システムをはじめ、売買、保有状況、パフォーマンス等に係る、貴社の主なシステムインフラについて説明してください。
③事務正確化への取り組み等	

3.(4)ディスクロズ体制 (様式3-4)

記載項目	記載上の注意事項
①情報開示やレポート、顧客とのコミュニケーションの体制・内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。(複数ページに渡って結構です。)
②アカウントビリティーに対する取り組み(定期運用状況報告への対応を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・同上。
③再委託先との情報開示制限やコミュニケーション方法等	<ul style="list-style-type: none"> ・同上

3.(5)コンプライアンス・監査体制 (様式3-5)

記載項目	記載上の注意事項
①担当する部署、体制	<ul style="list-style-type: none"> ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。(複数ページに渡って結構です。)

②社内規定の整備、コンプライアンス遵守への取組み、事故発生時における対応	・同上。
③利益相反の防止、情報管理	・同上。
④監査の状況（内部監査、外部監査）	・同上。

3.(6)運用報酬率表（様式3-6）

記載項目	記載上の注意事項
契約種類	<ul style="list-style-type: none"> ・複数提示可。 （例）投資一任契約と単独運用指定包括信託 その場合には、契約種類ごとに報酬率テーブルを作成してください。
報酬率テーブル	<ul style="list-style-type: none"> ・当機構に提示する料率を記載。（最終的な料率は採用先と相対で決定します） ・応募プロダクトについて、複数の契約種類を提示する場合は、契約種類ごとに（様式3-6）を作成のうえ、右上の（様式3-6）を（様式3-6-①）（様式3-6-②）のように枝番をつけたものに書き換えてください。その場合は、シート見出しも同様に書き換えてください。
受託条件等	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、最低受託金額等。

3.(7)成功報酬体系について（様式3-7）

記載項目	記載上の注意事項
①成功報酬体系の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・応募プロダクトについての成功報酬体系の有無。
②具体的な体系や条件	<ul style="list-style-type: none"> ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
③応募プロダクトで成功報酬体系を希望するか否か、その理由	

国内株式スマートベータ プロダクト概要(サマリー)

表紙

記載項目	記載上の注意事項
運用再委託先名	・グループ会社であっても、運用の実質的投資判断を行う再委託先として契約書等に明記することとなる場合には、運用再委託先として記載してください。

【1】

記載項目	記載上の注意事項
運用機関名、運用再委託先、プロダクト名	・グループ会社であっても、運用の実質的投資判断を行う再委託先として契約書等に明記することとなる場合には、運用再委託先として記入してください。
運用スタイル	・該当する運用スタイル名の右隣のセルで『○』を選択してください。また、「その他」を選択した場合には、その運用スタイルの内容を記入してください。
運用手法	・該当する運用手法の右隣のセルで『○』を選択してください。
運用開始年月	・調査票の2.(1)応募プロダクトの概要の④運用開始年月と同じ。
運用ベンチマーク	・応募プロダクトがベンチマークとしている指標を記載。 TOPIX(配当込み)の場合は、その右隣のセルで『○』を選択。その他の場合は、その右隣のセルで『○』を選択するとともに、その運用ベンチマーク名を記載。
TOPIX(配当込み)に対する超過収益率	・TOPIXに対しての超過収益に関するコメントを記載。
目標リスク	・指標を明確に記載。 (例) 対運用ベンチマークの実績TE(管理値) : 0.1%以内
想定売買回転率	
想定保有銘柄数	
キャパシティ	・応募プロダクトへの資金流入により、当該運用がソフトクローズになるような運用受託残高上限のイメージ。(あれば)
最低投資金額	・応募プロダクトについて、1ファンドとして受託可能な下限金額
国内株式アクティブ運用プロダクトの受託残高	・応募先について記載。(運用再委託先ではない) ・調査票の1.(2)業況の②受託資産残高、件数の推移の〈アセットクラス別〉に記載する国内株式アクティブの残高(2018/3/31)を記載。

国内株式スマートベータプロダクトの 受託残高	<ul style="list-style-type: none"> ・応募先について記載。（運用再委託先ではない） ・スマートベータ運用を行っている国内株式プロダクト全体の受託残高（2018/3/31）を記載。
うち応募プロダクトの受託残高	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の残高のうち、応募プロダクトと同一戦略※のファンドの総受託残高。（海外受託分も含む） ※「同一戦略」とは、「応募プロダクトと同じ運用組織、運用プロセスによる運用で、類似のリスク・リターン特性を持つもの」とします。

【2】

記載項目	記載上の注意事項
プロダクトの概要、投資哲学等	<ul style="list-style-type: none"> ・調査票で詳しく記載していただきますので、こちらには簡潔に記入してください。

【3】

記載項目	記載上の注意事項
TOPIX(配当見込み)に対する超過収益源泉の割合イメージ (%)	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略（ファクター）が6つ以上ある場合には、本シートをコピーして、そちらに続けてご記入ください。（<u>行を挿入しないでください。</u>）

【4】

記載項目	記載上の注意事項
応募プロダクトについて、運用制約があった場合の対応（可否）、考え方等	<ul style="list-style-type: none"> ・各運用制約について、応募プロダクトの運用が可能かどうか、また可能であるが通常の運用とは異なる対応が必要となるのであれば、現実的にどのような対応を行うかをお答えください。（<u>運用制約についての是非をお聞きしているものではありません</u>） ・オフベンチマーク銘柄や低流動性銘柄については、応募プロダクトの通常運用における運営や考え方、併せて制約がある場合の対応について記載ください。

【5】 対TOPIX(配当込み)の定量データ等

記載項目	記載上の注意事項
超過収益率、要因分析	
実績TE(年率)、情報レシオ	
推定TE、ベータ値、保有銘柄数	<ul style="list-style-type: none"> ・各年度末(期末)の数字を記載。

売買回転率	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算方法は、$\{(売約定金額 + 買約定金額) \div 2\} \div \text{時価平均残高 (未収収益、評価損益を含む)}$とする。 それ以外の計算方法による場合は、特記事項欄に内容を記載。
応募プロダクト受託残高	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【1】のうち応募プロダクトの受託残高と同じ。 ・ 各年度末(期末)の数字を記載。
応募プロダクト顧客数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記の応募プロダクト受託残高に対応する顧客数。 ・ 原則としてファンド数でなく、顧客数ベースで計上。合同口は顧客数を数え、1顧客から複数ファンドを受託している場合は1件として数えてください。 (そうでない場合は特記事項に内容を記載のこと。) ・ 各年度末(期末)の数字を記載。
国内株式スマートベータプロダクト受託残高	<ul style="list-style-type: none"> ・ 【1】の国内株式スマートベータプロダクトの受託残高と同じ。 ・ 各年度末(期末)の数字を記載。
国内株式スマートベータプロダクト顧客数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記の国内株式スマートベータプロダクト受託残高に対応する顧客数。 ・ 原則としてファンド数でなく、顧客数ベースで計上。合同口は顧客数を数え、1顧客から複数ファンドを受託している場合は1件として数えてください。 (そうでない場合は特記事項に内容を記載のこと。) ・ 各年度末(期末)の数字を記載。
特記事項	

【6】

記載項目	記載上の注意事項
TOPIX(配当込み)に対する要因分析項目の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要因分析項目が6つ以上ある場合には、本シートをコピーして、そちらに続けてご記入ください。(行を挿入しないでください。)

【7】

記載項目	記載上の注意事項
過去に大きなドロウダウンや、受託額の大幅な変動があった場合の説明	

以下、【8】及び【9】については、応募プロダクトの運用ベンチマークがTOPIX（配当込み）以外である場合のみ記入すること。

（応募プロダクトのベンチマークがTOPIX（配当込み）である場合及び応募プロダクトがノンベンチマークである場合は記載の必要なし）

【8】

記載項目	記載上の注意事項
運用ベンチマーク	【1】で回答した運用ベンチマーク名を記載。
超過収益率、要因分析	応募プロダクトの運用ベンチマークがTOPIX（配当込み）以外の場合、運用ベンチマークに対する超過収益率及びその要因分析を記載すること。
実績TE（年率）、情報レシオ	
推定TE、ベータ値	・各年度末（期末）の数字を記載。

【9】

記載項目	記載上の注意事項
TOPIX（配当込み）以外の運用ベンチマークに対する要因分析項目の説明	・要因分析項目が6つ以上ある場合には、本シートをコピーして、そちらに続けてご記入ください。（行を挿入しないでください。）

【10】

記載項目	記載上の注意事項
規模別構成比	・時価総額ウェイトベースでの数値（%）を記載。

【11】

記載項目	記載上の注意事項
業種別構成比	・時価総額ウェイトベースでの数値（%）を記載。

【12】

記載項目	記載上の注意事項
リスク分析①	<ul style="list-style-type: none"> ・運用実績のない期間についてもシミュレーションにて、Barra JPE4モデルによるリスク分析を記載すること。 ・全指定時期について、JPE4モデル導入前の分についても遡って分析を記載すること。 ・Barra JPE4モデルによるリスク分析のデータが作成できない場合は、こちらのシートには記入せず、【13】に現在利用しているリスクモデル分析のデータを記載すること。

【13】

記載項目	記載上の注意事項
リスク分析②	<ul style="list-style-type: none"> ・Barra JPE4モデルによるリスク分析のデータを作成できない場合は、こちらのシートに現在利用しているリスクモデルによるリスク分析を記載すること。 ・<u>運用実績のない期間についてもシミュレーションにて分析を記載すること。</u> ・現在利用しているモデルを指定期間の途中で導入した場合も、全指定期間について遡って分析を作成すること。 <p>(【12】にてBarra JPE4モデルによるリスク分析を記載した場合は、【13】は記載の必要なし。)</p>

【14】 -1

記載項目	記載上の注意事項
月次運用実績データ (収益率)	<ul style="list-style-type: none"> ・コンボジット又は代表ファンドのデータを記載。 いづれを選んだかを、(i) 掲載ファンドの内容にて説明。 ・記載のファンド収益率が、シミュレーションにより算出したものである場合などは、その算出方法を具体的に (iii) シミュレーションの前提条件等、その他特記事項に記載してください。
月次運用実績データ (推定TE、ベータ値)	<ul style="list-style-type: none"> ・同上
(i) 掲載ファンドの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・指定の各事項について必ず記載してください。
(ii) 掲載ファンドの基本的な運用条件	
(iii) シミュレーションデータが含まれる場合	<ul style="list-style-type: none"> ・運用期間前のシミュレーションデータを含む場合は、その旨を記載してください。
(iv) その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・運用期間前のシミュレーションデータを含む場合は、バックテストの条件等、その具体的な算出方法や基準を記載してください。

【14】 -2

記載項目	記載上の注意事項
月次運用実績データ (収益率)	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>応募プロダクトの運用ベンチマークがTOPIX (配当込み) 以外である場合のみ記載。</u> ・【14】-1で記載したファンドについて、運用ベンチマークに対するものを記載。
月次運用実績データ (推定TE、ベータ値)	<ul style="list-style-type: none"> ・同上

【15】

記載項目	記載上の注意事項
TOPIX対象外銘柄の保有状況	<ul style="list-style-type: none">・ TOPIX対象銘柄以外の全ての保有銘柄を記載。・ 【14】に掲載した月次運用実績データが代表ファンドのものである場合、ここに掲載するファンドも同一のものであるのが望ましい。

【16】

記載項目	記載上の注意事項
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none">・ 前掲の【1】～【15】の各項目で記入できなかった特記事項等が何かあればこちらに記載。（何もなければ「なし。」と記載してください。）

国内株式スマートベータ 運用機関調査回答書(調査票)

表紙

記載項目	記載上の注意事項
運用再委託先名	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ会社であっても、運用の実質的投資判断を行う再委託先として契約書等に明記することとなる場合には、運用再委託先として記載してください。 ・各項目について、再委託先についても作成する、あるいは再委託先について作成する旨の脚注があるものは、その指示にしたがって作成してください。その際、記載不能な箇所がある場合は、その旨のコメントを入れるなど適宜ご判断して作成してください。

1.(1)会社概要 (様式1-1-1) (様式1-1-2)

記載項目	記載上の注意事項
①会社名	
②所在地	
③代表者	
④役員数、従業員数	
⑤設立年月日	
⑥登録・許認可	
⑦資本金	・基準時点も記載。
⑧主要株主	
⑨会社沿革	
⑩経営理念	
⑪企業グループ全体の一覧表	・グループの全体像とそこでの貴社の位置づけがわかるように記載。

1.(2)業況 (様式1-2)

記載項目	記載上の注意事項
①業績 (過去5年度の決算状況(連結))	・確定した直近決算期から過去5年度分の本決算の数字を記載。(例えば、2017年度(2018年3月31日)決算の数字が未確定で記載できない場合等は、2016年度(2017年3月31日)以前の5年度分を記載)

②受託資産残高、件数の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・件数は顧客数ベースの件数を記載。 ・〈顧客類型別〉と〈アセットクラス別〉の合計件数は一致しなくて結構です。
---------------	---

1.(3)組織図 (様式1-3)

記載項目	記載上の注意事項
会社組織の全体像及び各組織の人数	・特に応募プロダクトの運用部門の位置づけがわかるように記載。

1.(4)運用スタッフ (様式1-4)

記載項目	記載上の注意事項
①運用の最終責任者	・貴社のチーフ・インベストメント・オフィサーを記載。 (応募プロダクトの運用チーフということではない)
②人数の推移、平均経験年数、平均勤続年数	
③人材育成に関する考え方、体制	
④評価体系、給与体系等で工夫している点 (定着率を向上させるための施策)	

1.(5)資金運用業務に関する行政処分の状況 (様式1-5)

記載項目	記載上の注意事項
過去5年(平成25年4月以降)の行政処分の有無	
過去5年(平成25年4月以降)の運用業務に係る訴訟の有無	

2.(1)応募プロダクトの概要 (様式2-1)

記載項目	記載上の注意事項
①実質的投資判断を行う再委託先	・グループ会社であっても、運用の実質的投資判断を行う再委託先として契約書等に明記することとなる場合には、運用再委託先として記載してください。
②プロダクト名・スタイル	<ul style="list-style-type: none"> ・運用スタイルについては、該当する運用スタイル名の右隣のセルで『○』を選択してください。また、「その他」を選択した場合には、その運用スタイルの内容を記入してください。 ・運用スタイルについては、該当するものの右隣のセルで『○』を選択してください。

③投資哲学	<ul style="list-style-type: none"> ・ファクターのリターン有効性の根拠となる投資哲学を、学術的・理論的背景を踏まえて説明すること。 ・ファクターのリターン有効性について、アウトオブサンプルも含めた実証、検証について言及すること。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
④運用開始年月	<ul style="list-style-type: none"> ・応募プロダクトの運用開始年月を記載。 (運用業務開始や運用再委託開始の年月ではない)
⑤運用目標	<ul style="list-style-type: none"> ・定量的な指標を記載。
⑥超過収益の源泉	
⑦資産運用額の上限（キャパシティ）	プロダクト概要【1】のキャパシティと同じ金額を記載してください。
⑧資産運用額の上限の考え方・管理について	

2.(2)運用体制（様式2-2）

記載項目	記載上の注意事項
①応募プロダクトの運用担当部署、調査担当部署	
②応募プロダクトの運用担当者、調査担当者の状況	
③応募プロダクトの運用担当者、調査担当社の状況の経歴書	

2.(3)運用プロセス（様式2-3-1）（様式2-3-2）

記載項目	記載上の注意事項
①応募プロダクトの運用に係る意思決定プロセスのフローチャート	<ul style="list-style-type: none"> ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
②意思決定プロセスに係わる機関	<ul style="list-style-type: none"> ・同上。
③応募プロダクトの運用ルールの特徴、銘柄選択の基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・同上。
④応募プロダクトのポートフォリオ構築について、担当者や具体的な構築プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・同上。

2.(4)運用のモニタリング(ミドルオフィス体制) (様式2-4)

記載項目	記載上の注意事項
①応募プロダクトに係る運用のモニタリング体制	<ul style="list-style-type: none"> ・フロントオフィス(運用部門)とミドルオフィス(評価・分析部門)が分離されているか説明してください。 ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。(複数ページに渡って結構です。)
②モニタリングの内容、目的、ツールと方法、頻度等	<ul style="list-style-type: none"> ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。(複数ページに渡って結構です。)
③運用状況の分析・評価、運用部門へのフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・フロントオフィスとミドルオフィス間のチェック体制について説明してください。 ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。(複数ページに渡って結構です。)

2.(5)デリバティブの利用 (様式2-5)

記載項目	記載上の注意事項
①応募プロダクトで利用するデリバティブの種類、利用目的、基準・条件等	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客からの運用制約等は考慮せず、通常の形での運用を前提とした記載で結構です。(通常の利用の仕方)

2.(6) 日本版スチュワードシップ・コードへの対応 (様式2-6)

記載項目	記載上の注意事項
①スチュワードシップ活動への対応方針、取り組み等	<ul style="list-style-type: none"> ・会社としての対応方針、取り組みを簡潔に説明してください。(応募プロダクトについてということではない) ・他ファイルの貼り付け可。
②利益相反管理の基本方針、管理体制等	<ul style="list-style-type: none"> ・スチュワードシップ活動に係る利益相反管理について説明してください。(「様式3-5 コンプライアンス・監査体制」と内容が重複しても結構です。) ・「③議決権行使について」及び「④投資先との対話(エンゲージメント)について」と内容が重複する、あるいは分けると書きにくいような場合は、②③④をまとめて記載するなどの形でも結構です。 ・他ファイルの貼り付け可。 ・管理体制については、フローチャート図等をお示してください。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。(複数ページに渡って結構です。)

③議決権行使について	<ul style="list-style-type: none"> ・体制・プロセスについては、フローチャート図等をお示しください。 ・他ファイルの貼り付け可。 <p>記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）</p>
④投資先企業との対話（エンゲージメント）について	<ul style="list-style-type: none"> ・同上

2.(7) PRI、ESGへの取組み（様式2-7）

記載項目	記載上の注意事項
①PRI（国連投資責任原則）への署名の有無	
②PRIへの対応方針等	<ul style="list-style-type: none"> ・署名しているのであればその理由、実際の取組み等。 署名していないのであれば、その理由と今後の署名に対する方針等。
③会社としてのESGに対する対応方針、取組み等	<ul style="list-style-type: none"> ・会社としてのESGに対する対応方針、現在あるいは今後予定している取組み等についてご記入ください。（応募プロダクトについてということではない） <p>記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）</p>

2.(8) 特記事項（様式2-7）

記載項目	記載上の注意事項
①応募プロダクトの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
②投資・解約条件など特殊な条件や制約等	<ul style="list-style-type: none"> ・同上。

3.(1) リスク管理体制（様式3-1）

記載項目	記載上の注意事項
①担当する部署、体制	<ul style="list-style-type: none"> ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
②主要な管理項目と具体的な内容、頻度	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク認識及びリスク管理の方法（重視するリスク管理指標、目標数値の設定、リスク分析、モニタリング方法等）について説明してください。 ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）

③利用するツールやシステム対応	<ul style="list-style-type: none"> ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
④市場急変時の対応、緊急事態発生時における業務継続計画（BCP）等	<ul style="list-style-type: none"> ・同上
⑤運用再委託がある場合は、再委託の管理・監督等	<ul style="list-style-type: none"> ・同上

3.(2)トレーディング体制（様式3-2）

記載項目	記載上の注意事項
①担当する部署、体制	<ul style="list-style-type: none"> ・専任トレーダー数、運用フロントとの役割分担等について示してください。 ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
②トレーディングシステム	<ul style="list-style-type: none"> ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
③証券会社の選定基準、発注基準（ソフトダラーとの関連）	<ul style="list-style-type: none"> ・同上。
④最良執行、取引コスト抑制等への取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・トレーディングについて工夫している点について説明してください。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）

3.(3)事務処理体制（様式3-3）

記載項目	記載上の注意事項
①担当する部署、体制	<ul style="list-style-type: none"> ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
②バックオフィスのシステム	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンドデータを処理・管理する基幹システムをはじめ、売買、保有状況、パフォーマンス等に係る、貴社の主なシステムインフラについて説明してください。
③事務正確化への取組み等	

3.(4)ディスクロージャー体制（様式3-4）

記載項目	記載上の注意事項
①情報開示やレポーティング、顧客とのコミュニケーションの体制・内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・他ファイルの貼り付け可。 ・記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。（複数ページに渡って結構です。）
②アカウントビリティに対する取組み（定期運用状況報告への対応を含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・同上。

③再委託先との情報開示制限やコミュニケーション方法等	・ 同上
----------------------------	------

3.(5)コンプライアンス・監査体制 (様式3-5)

記載項目	記載上の注意事項
①担当する部署、体制	・ 他ファイルの貼り付け可。 ・ 記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。(複数ページに渡って結構です。)
②社内規定の整備、コンプライアンス遵守への取組み、事故発生時における対応	・ 同上。
③利益相反の防止、情報管理	・ 同上。
④監査の状況(内部監査、外部監査)	・ 同上。

3.(6)運用報酬率表 (様式3-6)

記載項目	記載上の注意事項
契約種類	・ 複数提示可。 (例) 投資一任契約と単独運用指定包括信託 その場合には、契約種類ごとに報酬率テーブルを作成してください。
報酬率テーブル	・ <u>当機構に提示する料率</u> を記載。(最終的な料率は採用先と相対で決定します) ・ 応募プロダクトについて、複数の契約種類を提示する場合は、契約種類ごとに(様式3-6)を作成のうえ、右上の(様式3-6)を(様式3-6-①)(様式3-6-②)のように枝番をつけたもの書き換えてください。その場合は、シート見出しも同様に書き換えてください。
受託条件等	・ 例えば、最低受託金額等。

3.(7)成功報酬体系について (様式3-7)

記載項目	記載上の注意事項
①成功報酬体系の有無	・ 応募プロダクトについての成功報酬体系の有無。
②具体的な体系や条件	・ 他ファイルの貼り付け可。 ・ 記入欄が不足する場合は、行の挿入等を行って適宜枠を延ばしてください。(複数ページに渡って結構です。)
③応募プロダクトで成功報酬体系を希望するか否か、その理由	

以上